

4. インターネット公開中の研究資料検索システムに提供中のデータベース

標記のデータベースには以下の15種がある。

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1) 美術関係図書 | 9) 画廊資料 |
| 2) 伝統芸能関係図書 | 10) 美術関係文献 |
| 3) 保存修復関係図書 | 11) 『保存科学』 所載文献 |
| 4) 売立目録 | 12) 伝統芸能関係三雑誌所載文献 |
| 5) 展覧会カタログ | 13) 『美術研究』 総目次 |
| 6) 和雑誌 | 14) 近現代美術展覧会開催情報 |
| 7) 写真原板 | 15) 伝統楽器情報 |
| 8) 美術家・美術関係者資料 | |

5. 図書受入数

和漢書885件、洋書41件、展覧会図録・報告書等3,868件、雑誌2,229件（受入総数7,023件）
38種の目録所在情報

6. 資料閲覧室の利用状況

公開日総数139日、利用者年間合計1,139人

研究組織

○綿田稔、田中淳、山梨絵美子、二神葉子、小林公治、津田徹英、塩谷純、小林達朗、皿井舞、城野誠治、井上さやか、橘川英規、中村明子、鳥光美佳子（以上、企画情報部）、飯島満、佐野千絵（以上、企画情報部併任）

無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（③無03-12-2/5）

目 的

無形文化遺産部では、旧芸能部時代から、文献資料のほかに、音声・画像資料を積極的に収集してきた。これらの記録は極めて貴重であるが、記録メディアの進展に伴って、より好環境のもとに保存してゆく必要がある。このため無形文化遺産部では、画像・音声・映像資料の媒体転換を進めてきたが、将来的には、デジタル化された各種資料の集積によって、デジタル・アーカイブの開設を目指している。

成 果

昨年度までに受入れ手続きが完了した資料の内、経年変化に伴う音質劣化が懸念されるオープンテープのデジタル化を昨年度に引き続き実施した。カセットテープに関しても、将来のデジタル化を視野に、収録内容の確認を含めた整理を行った。所蔵SPレコードの内、特殊な再生装置が必要な初期音盤の一部について、内容確認及び媒体変換を行った。

研究組織

○宮田繁幸、高桑いづみ、飯島満、今石みぎわ、綿貫潤、星野厚子、佐野真規（以上、無形文化遺産部）